

# ビジョン実現に向けた取組み

## 人文・社会科学的方法

モビリティの定義 (Myers, Cyarto, & Blanchard, 2005) と、高齢者のモビリティに関する理論的フレームワーク (Webber, Porter, & Menec, 2010) に基づき、日常生活におけるモビリティを包括的に定量化する指標として、QOMLという尺度の構築を試みました。単に実際に行った移動量だけでなく、移動に使った手段の質 (安心や経済性など) と、移動によって得られた心理的満足度なども射程に入れ、移動の包括的な良好性を測定する指標として確立することを目指しました。

概念的な妥当性検証の仮説として、モータリリティ (Motility) と、well-beingとの関連性を検討し、移動の潜在性としてのモータリリティは、高齢者の実際に行った移動量と関連し、さらに、well-beingとも関連することが既に示されています。これらのことから、モータリリティとQOMLが関連するかどうか、QOMLとwell-beingが関連するかを検討しました。

その結果、モータリリティが高い高齢者ほどQOMLも高いこと、QOMLがwell-being (人生満足度・ポジティブな対人関係) と関連することが示されました。これら結果は、QOMLが身体・心理的に適応的な指標として機能する可能性を示すものといえます。

今後は、高齢者以外の年代にも利用可能かの検討や、人々の移動をさらに包括的に評価できる指標となるよう研究を進めていく予定です。



## 社会実装に向けた取組 - 製品・サービス -

